学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話（986）0221内線607

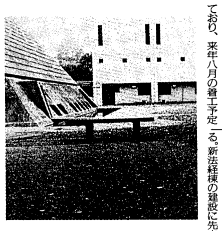
発行・編集人　杉本　勝之

年間200円

新法経棟実現に向け始動

建設予定地は現本部位置
仮本部棟来月にも着工す

新法・経教育研究棟（新法経棟）の建設計画が、院の組織である校地・校舎等整備委員会の承認を経て、具体的な設計段階にある。新法経棟は現本部位置に建設され、文学部研究棟を上回る規模の総合的なインテリジェント・ビルとなる見込みだ。これに先立ち、仮本部棟の建設が来月中旬に着工される。数年来の懸案事項であった新法経棟建設計画が、実現に向けてようやく動き始めることとなった。



新法経棟建設予定地（ピラ校裏）

新法経棟の建設計画は、現在最終的な詰めの段階に入っており、来年八月の着工予定だ。計画によると、建設予定地は現本部位置となっている。新法経棟の建設に先立ち、中央教室（ピラ校）と南一号館の間に仮本部棟（プレハブ）が建設される。工事期間は十一月中旬から来年三月末日まで。このうち十二月末にはプレハブの組み立てを終了し、一月以降は内装工事などに入る予定だ。

本部には教務部をはじめ、経理部や管財部など多くの部署が配置されており、仮本部棟にはこれらの機能がすべて移される。現本部より手狭になるが、本部職員の理解のもと、スムーズな機能移転が行われる見通しだ。

新法経棟の建設計画は、最初に校地・校舎等整備委員会の第二部会（大学施設を担当）で審議・承認された後、同委員会の全体会議（通称・親委員会）で決定されたものだ。同委員会では計画の大まかな点について決定するだけで、細部についてはその学部の建築委員会にゆだねられる。

法・経両学部建築委員会では、新法経棟の内容について、すでにその意向を固めたといわれる。それによると、従来の法経棟をスペース・機能の両面で充実をはかり、新たにコンピューターを導入して、高度情報化社会に対応している。これを受けて、より具体的な設計段階に入り、現在、最後の詰めの作業が行われている。

この計画は、理事会および評議委員会で最終的な承認を得てから必要な予算措置が図られる。その財源について早川東三学長は本社のインタビューの中で、これまで院側とも協議を重ね、さまざまな方法を検討してきており、「新法経棟建築を直接の理由として来年度即座に授業料を値上げすることはない」としている。

法・経両学部移転後の現法経棟の利用方法について早川学長は、あくまで個人的な見解であるとした上で①東洋文化研究所や国際交流センターなどの付置機関・付置施設の移転②中央図書館の一部機能の移転——を挙げている。また仮講堂の敷地に新たに教室棟を建てる構想や、学生集会所の高層化案などが持ち上がっていることを明らかにした。新法経棟の建設をきっかけに、今後、構内の整備がさらに進められることになるだろう。

（二面にインタビュー記事）

仮本部棟への移転

新法経棟建設に先立ち、本部機能の仮本部棟への移転が行われる。仮本部棟は来年三月の完成予定だが、そこで問題になるのが移転の時期だ。それぞれの部門によって業務の多い時期が異なるため、互いの業務に最も影響の少ない時期が検討されている。

なお、新本部棟建設の具体的な点については、今のところ白紙の状態である。

解説

新法経棟の建設は両学部の数年来の悲願であった。現法経棟が財政困難な時代につくられたため、演習室不足など設備の面で不自由を余儀なくされてきた。これに拍車をかけたのが、学生の臨時定員増である。マスプロ教育を排除し、教師と学生の交流を深めることも、新法経棟建設の理由の一つとされている。

早川学長は、構内の整備を進めるにあたって、本学の優れた研究環境を生かし、限られた空間を有効に利用しなければならないと強調した。新法経棟は当初ピラ校の位置に建設される計画であった。だが、そこに十階を超えるビルを建てた場合、周りの空間が非常に狭く感じられることが予想された。当初の計画が中止された背景には、本学のシンボルであるピラ校の取り壊しへの反対に加えて、そうした構内全体の環境への配慮があったものと思われる。

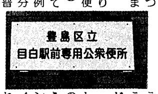
紙面紹介

学長インタビュー（二面）
学祭準備特集（三面）
どうなる四大戦（四面）

駅前便所真相解明

本紙八十九号目白特集で取り上げた「目白駅前専用公衆便所」について、その真相を明らかにします。

豊島区役所公園緑地課によりますと、東京都豊島区立公衆便所条例（漢字ばっかしだなぁ）が公衆便所関係を取り仕切っている、とのことです。この条例は区内の公衆便所を四つに区分していますが、大別すれば、普通、街中にあるものと、公園の中にあるものとに分けられます。前者を専用公衆便所と呼び、後者を公園内公衆便所と呼ぶのです。



そういったわけで、「目白駅前専用公衆便所」の正しい読み方は、「めじろえきまえ（にある）せんようこうしゅうべんじょ（という種類のべんじょ）」となります。

では、なぜ、「専用」というコトバを使ったのでしょうか。その意図をたずねてみると、「答えらしい答えは、ないです。ゴメン。でも公衆便所なんていうマイナーな分野に興味を持ってくれて、アリガト」（公園緑地課談）とのことでした。

内藤院長再選さる
評議員会で正式決定

八月六日、学習院評議員会において、内藤頼博院長が再選された。院長選任は、学校法人学習院校規第六条によるもの。任期は平成二年八月十四日より三年間。内藤院長の再選は任期満了に伴うもので、二期目の就任となる。

院長選任の過程は、関連規程に定める手続きに従い、任期満了を前にした五月三十日の評議員会で院長候補者選考委員会の設置を決定。六月上旬までには、本院関係者や学識経験者などから成る二十八人の委員が決定した。選考が重ねられた結果、六月二十七日の同委員会で内藤院長を次期院長候補者として評議員会に推薦することを決定。八月六日に開かれた評議員会ではこれを受け、内藤院長の再選を正式に決議した。

内藤院長は戦後六人目、平成に入って初めての院長。また本院初等科から旧制高等科に学んだ学習院の生え抜きでもある。学習院生え抜きの院長は、先代の磯部忠正院長（現名誉院長）に次いで二人目。

内藤頼博院長

プロフィル
内藤　頼博（ないとう・よりひろ）旧制学習院高等科を経て東京帝大法学部卒。昭和45年から48年まで名古屋高裁長官。学校法人学習院評議員、桜友会長、学校法人学習院理事などを歴任の後、昭和62年第22代学習院長となる。東京都出身。83歳。

大学祭へ動き出す
日程11月1日～4日

九月二十日に開かれた第二回参加団体総会において、大学祭実行委員会（大実委）は、十一月一日から四日まで開催される第二十一回学習院大学祭の基本方針およびスローガン〝ＬＩＶＥ—渇いた時代創ろう文化のオアシスを〟を発表した。このスローガンは、マニュアル化した時代にあって、創意工夫が見られる大学祭をつくりたい、ということから選ばれた。

また大実委はここ数年の中央企画、前・後夜祭がマンネリ化していたとし、これらの企画を練り直すとともに、新たに中夜祭、公開講義を設ける。なかでも中夜祭は、文化系サークルに所属していない学生が大学祭へなかなか参加しない、という事情を考慮し企画されたもので、大物タレントの野外コンサート（無料）などが予定されている。

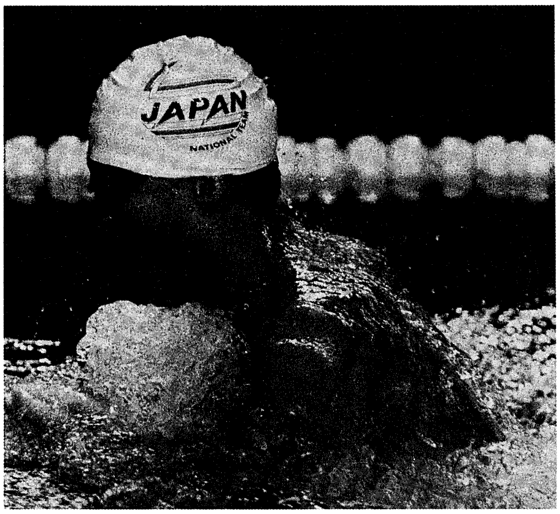
大実委委員長の中森憲さん（文常・哲四）は「文化創造の低迷している時代に、サークル活動でみずみずしい文化的なオアシスを創ろう、というのが今年の大学祭の方向性です。大学祭はサークルの日頃の研究発表の場です。多くの人に来てもらい、サークルが頑張っているところを見てほしい。そのために私たち大実委は粉骨砕身頑張ります」と述べている。（三面に特集）

黎運委総会開かる

平成二年度初の黎明会館運営委員会（黎運委）事務局総会が九月二十七日、西二号館二号室において開かれた。

六月に決定した新事務局員の紹介後、岩田洋事務局長（営三）が今後の黎明会館運営に関し、①運営管理の原則②業務内容③館内サークルによる当番制の復活④各階ごとの清掃責任サークルと清掃日の決定——主に以上四項目を説明した。これらは効率よい会館運営を図るため、打ち出されたものである。

全サークル参加による運営の徹底を目指すため、黎運委が注意しても業務を怠るサークルについては、各常任委員会に報告し、対処してもらう制度にする予定。今回は、書類未提出で総会を欠席したサークル、および清掃不参加サークルがペナルティーの対象となりそうだ。



川口選手銀メダル

北京アジア大会競泳の部に、本学経営学科2年川口伸之さんが出場。本選100㍍平泳ぎ・同200㍍平泳ぎで、銅・銀メダルを見事に獲得した。

写真は大会新記録を出した100㍍平泳ぎ予選＝時事

（4面に関連記事掲載）

学習院むかし昔

第七回　四大戦秘話

今年、四大学運動競技大会（四大戦）は四十一回を迎える。四十数年の歴史を持つ大会であるが、一般学生の参加の低調さや、その無関心さ、そして大会自体がマンネリズムに陥るなどの問題を抱えている。過去に、これらの問題を解決すべく試みられてきたが、打開には至っていない。今回は四大戦草創期における一つのエピソードを紹介し、それを通じて初期四大戦とその根底に流れる精神を追う。そして転換期にある今の四大戦を考え直したい。

成立の歴史的背景

戦後の学制改革に伴い、学習院も大学を創設することになった。このような中で、学習院はどのような理想のもと、どのような教育を目標とするのかを模索し、具体化を試みていた。その段階で、七年制の旧制学校を持ち、地理的にも近く、学生層も似通っている成蹊・成城・武蔵・学習院の四校が連合し、東京連合大学を創立する構想が持ち上がった。結局、この構想は実現に至らなかったが、四大学の親ぼく、交流を目的とする四大戦の開催が決定された。記念すべき第一回大会の際、安倍能成学習院大学学長は、「秋空の下に力を争ったことが、四大学の日本文化に対する協力を裏づける基礎的な心持に成長してゆくことを祈ってやまない」と大会の意義を述べている。

東名間オートレース

四大戦の歴史の中で、極めてユニークな種目が存在していた。第三回大会での東京四大学東京—名古屋間遠乗りオートバイ競技会がそれである。当時はオートバイがやっと普及し始めた頃であった。大会実行委員は車種をホンダのドリーム号に決定したものの、いかにしてオートバイを無料で入手するかという問題が残った。

そこで当時病気入院中であった本田技研社長本田宗一郎氏に直接、頼み込んだ。大会実行委員の宮崎秀樹さん（武蔵）は当時をこう回想している。

「本田宗一郎社長も、一面識のない学生の闖入（ちんにゅう）に面食い『一体君達は何者だ』と言われ、我々はカクカクシカジカの者で、是非貴社の優秀なドリーム号十台を、四大学でレース車として使用したいので、いただけないかと趣旨を述べたところ、さすがは大物社長『世の中で今迄図々しい奴はいくらでも見てきたが、お前達の様な図々しい奴は始めてだ。よし、面白い。やるわけにはいかぬが貸してやろう』と即決で返答をいただいた」

当時の学生たちの企画力、行動力、そして図々しさに脱帽する。

こうして競技会は開催の運びとなった。その際、安井都知事から桑原愛知県知事、小林名古屋市長へのメッセージを持って東海道をひた走ることになった。

競技会は東京の朝日新聞社前をスタートし、浜松で一泊後、二日目に全車無事に愛知県庁に到着し、地元の人びとの歓待を受けた。夜には、参加者は四大学新聞部などと合流した後、歓迎パーティーに出席し、青春の一夜を心ゆくまで満喫したのだった。

☆　☆　☆　☆

この一見極めて無鉄砲な種目の実行を支えたものは何であったのだろうか。思うに関係者の緊密な協力、理解ある各方面の援助、後援、学生の新時代への開拓精神などが、この種目のみならず大会の草創期を支えていたのではないか。

われわれは大会の意義、それがわれわれに対して持つ意味を考え直す必要がある。現在はそのことがあまりにも忘れられすぎている。（なお役職等は当時のものである）

資料　小社発行縮刷版、四大学運動競技大会三十年史、学習院百年史

四大戦いよいよ開催

第四十一回四大学運動競技大会（四大戦）が、十月十九日から二十一日までの三日間本学を舞台に行われる。参加校は成蹊大学、武蔵大学、成城大学、学習院大学の四校。

四大戦は三月のスキー競技から実質的に始まっており、既に三分の一近くの種目が終了している。そのうち、ゴルフ、スキー、ヨットなどの競技で優勝を収め、今年も本学がややリードした形で開幕される。

しかし、三年連続二位の成蹊が今年こそ首位に立つか、着実に力を伸ばす成城・武蔵がどこまで競ってくるか、楽観視はできない。

昨年四十周年の節目を迎え今大会は新たな伝統を築くための第一歩となる。また、本学にとっては当番校であるうえ、過去最多の十一年連続優勝がかかっている。今大会が一層盛り上がることが期待される。

（四面に関連記事掲載）

即位の礼で休校

即位の礼正殿の儀が行われる十一月十二日月曜日を休校とすることが、先日学長により公示された。

この日を休日とする法律が今年六月一日に公布されたため、授業を行わない日を規定した学則第六二条第一項二号「国民の祝日に関する法律による祝日と休日」が適用される。全授業が休講、大学関係の事務取り扱いも休業となる。

おわびと訂正

先号の「輔仁会平成２年度予算」の記事中「署名審議」は「書面審議」、「私の散歩道」の記事中「…これらの建物には女子トイレしかない」というのは誤りで、男子トイレも存在します。また、87号の早川東三学長のプロフィル中の「学生部長」は「文学部長」の誤りでした。

ここに訂正し、おわび申し上げます。

学習院大学新聞社

明窓浄机

九月二十一日 [illegible]

父母会名簿簡略化

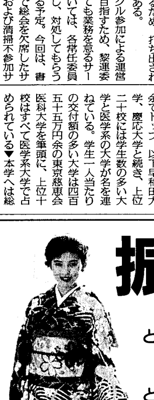
父母会名簿の[illegible]記載[illegible]によりさ[illegible]た。これ[illegible]ば、名簿の[illegible]略化できる[illegible]者は学生部[illegible]領し、記入[illegible]とのこと。

春休み！　海外へ翔ぼう!!

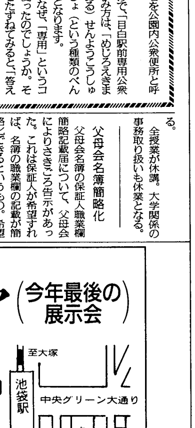
旅行説明会　11月14日（水）
◦ヨーロッパ周遊コース　14:40～16:00
◦アメリカホームステイ　16:40～18:00
※参加者へはツーリストガイドブックを差し上げます。

お問い合わせ先
(03)252-6861
担当：大島，片山

近畿日本ツーリスト株式会社
運輸大臣登録一般旅行業第20号
神田海外旅行支店
〒101　東京都千代田区内神田２－16－11
内神田渋谷ビル４F



振袖レンタルフェア（今年最後の展示会）
と　き：10月26日(金)～10月28日(日)
AM10:00～PM7:00
ところ：ジョイフル恵利池袋店
（池袋駅東口２分）
〈30周年感謝企画〉
振袖レンタルセット価格
19,800円～200,000円位
ジョイフル恵利
TEL 986-3521



早川学長インタビュー
新法経棟の概要を語る

懸案となっていた法・経教育研究棟（法経棟）の移築がいよいよ実現する。建設地は本部位置とされ、それに伴い十一月中旬から、中央教室と南一号館の間で、仮本部棟の建設工事が着工される。そこで、早川東三学長に、法経棟建設計画の進行について、お話を伺った。

（十月四日学長室にて）

―法経棟移築の理由は。

「現在の法経棟は、学習院が財政困難な時に建てられたものだ。だから、先生方と接触しながら勉強する物理的空間がないし、図書室も狭い。また臨時定員増で全体の学生の数が増えたことも、今の研究スペースがついていけないということに拍車をかけた。現実に文学部や理学部と比べると勉強する条件が必ずしも良いとはいえないだろう」

―新法経棟の建設地は。

「新法経棟は学生数からいっても文学部棟を上回る規模になる。学習院は広いように見えて、実はぜいたくに土地を使って建てるほど空間がない。木を切れば別だが木は切らないで大切にしている。それで本部を取り壊してこの敷地に建てることにした。これは、（院の組織で内部組織としては最終決定をする）校地校舎等整備委員会に承認を受けた。現在、法・経済学部建築委員会で、建物の形や内容などを最終的につめている」

―法経棟の内容は。

「法・経済学部の教授から、マスプロ教育を廃して小人数教育をもっと充実させたいという要望があった。また、法・経済学部のカリキュラム改正でますますじっくり研究できる空間が必要になってきた。文学部のように学生諸君が勉強できる空間を含んだものにしたいと考えている」

―工事の日程は。

「平成二年十一月中旬から平成五年三月末日までの予定だ。これは仮本部棟から新法経棟の建設まで全て含めた日程と考えている」

―建設費の財源は。

「新法経棟の建設費については、以前から院側と相談し準備してきている。だから、建物をつくるということを直接の理由として来年度即座に授業料を値上げすることはない。ただ、教育施設・設備が老朽化してくれば手直ししなければならない。しかし、それをすぐ授業料に転嫁することもできないので、合理化できるところは合理化し、その余力を他に回すことも考えねばならないだろう。これからも学生諸君の生活、学習、研究環境の改善に手をつけていくが、法経棟の建設はその第一歩だと考えている」

―仮本部棟はどのようなものになりますか？

「十一月中旬から工事に着工するが、教務部、経理部、管財部といった現在の本部の機能は、分散せずに全部入ることになる。教務部などの学生サービス部門は狭くできないので、われわれが我慢する。事務職員には、不便な建物になるだろうが、よく協力してくれ感謝している」

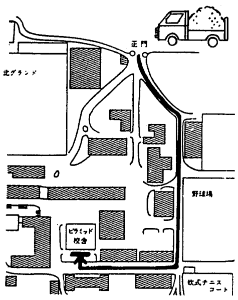
―新法経棟建設後の現在の法経棟の利用計画は。

「これは私の個人的な考えだが、学習院には東洋文化研究所や史料館、文学部の言語共同研究所などいろいろな研究所がある。これらは、十分な研究の場所がないので活用していただきたい。また、法経図書室の空間を有効に使って中央図書館の機能を吸収させたい。今の法経棟は、小型のエレベーター二機あるだけで、大量の学生を上にあげるようにできていないが、演習室にするという案も考えられる」

―将来に向けて、構内全体のプランニングについては。

「仮講堂は、教室として登録してある。現在、山手線内には人口集中を防ぐため、新たに教室はつくれないとされている。あの空間を有効に活用しなければならない。しかし、学生諸君の集会所として利用されているのだから、他に利用できる場所が保障されなければ、教室につくりかえるわけにいかない。現在、輔仁会館と学生集会所をつなげてコの字型の建物にするという案もでているが」

―本日はお忙しい中ありがとうございました。



建設工事のお知らせ

新法経棟建設に伴う一連の工事が、平成2年11月中旬から平成5年3月末日までの予定で行われます。期間中は工事車両が構内を通行しますので、事故のないように十分注意して下さい。工事車両の搬入経路は上図の通りです。

また、騒音が出る場合もありますので、ご了解下さい。

学習院net開設
パソコン通信も気軽に

かねてから計画されていた「学習院net」（正式名「学習院ネットワークシステム」）がこのほど完成、九月十七日より計算機センターでの利用が開始された。これによって学生のパソコン利用の幅が拡がり、授業や個人研究のほか、コミュニケーションの場としての使用が可能になった。

本学では、平成元年八月に国際的な学術情報交換を目的とした「BITNET」の運用を開始。現在、二十七カ国六百余りの大学・研究機関との情報交換を行っている。

これに対して、今回開設された「学習院net」は学内での情報交換を目的とするものであり、学生にとって、より身近で、気軽に使えるものと言えそうだ。

これを用いて利用できるのは、「電子メイル」「掲示板」「電子会議」の三つの機能である。

「電子メイル」とは、パソコン使用により個人間でメッセージの交換を行う機能のこと。相手に伝えたい文面を入力してファイルを作り、それを相手のUser－ID（ユーザー識別番号）に送信する。メイルを受け取る時は受信操作をすれば、画面にメッセージが表示される仕組みになっている。個々のUser－IDを覚えるのが大変という人には、代わりに愛称を用いて送信する方法もある。

「掲示板」は「電子メイル」と同じく、他者にメッセージを送る機能である。違うのは、それをセンターの利用者全員が見られるようになっている点だ。利用法はメイルと同様で、現在、競馬情報やインストラクターの紹介、授業に関する質問・回答コーナーを設けるなど、さまざまな情報が掲載されている。

「電子会議」は、文字通りパソコンを使って会議をするものである。すでに開かれている会議に途中から参加・退出することも可能。また、自分で新しく会議を開くこともできる。会議に参加する操作をすると、自分や参加者の言っていることがドラマの台本のように画面に映し出されるので、会議進行の様子が分かる。自分の意見を述べるには、その内容を入力すれば、それがそのまま画面に表示される。常時開設されているのは「座談会」だ。気の合った仲間とはもちろん、全く面識の無い人との間でも、とりとめもない会話が繰り広げられている。

これらのネットワークはセンター内にいる人間を結ぶだけでなく、より広範囲にわたるコミュニケーションが可能だ。例えば、ふだんなかなか会えない友人と連絡を取るための伝言板代わりに「電子メイル」を利用するなど、工夫次第でさまざまな活用方法がある。パソコンの新しい楽しみ方の一つとして、大いに利用してみてはどうだろう。

論説室

注目されるソ連経済

十月三日、朝刊の第一面を「統一ドイツ誕生」の見出しが飾った。朝のテレビニュースの中では、統一ドイツ誕生の瞬間が生放送で映し出された。キャスターの「歴史的に偉大な瞬間をみなさんと共有してまいりました」という言葉が胸に残る。

この記念すべき日の各紙朝刊を見比べると、四大紙中三紙がトップにドイツ統一を取り上げていた。そのうち某紙の第一面では奇しくもドイツ統一の記事に並んで、ソ連が日本の大手商社数社に対し、十億ドルの融資を要請していた事実を取り上げていた。いや、偶然というよりも、作為的なものを感じる。或いは自然の作為かもしれない。ソ連経済のゆくえは民主化の動きに大きな影響を与えるからである。

同記事で「湾岸危機を引き金にした原油価格の高騰で、石油資源の豊富なソ連経済の好転が期待されているが、実際は、依然としてソ連の外貨不足が深刻であることが浮き彫りになった」とある。原油価格の急騰により、世界最大の産油国であるソ連の外貨収入は年間七十億ドル程度増加すると見込まれていたという。まさに七十年代のオイルショックをほうふつとさせる現象だ。当時、原油価格の高騰にあわてふためく西側を冷やかに見下ろし、ソ連の豊富な原油の恩恵を受け、社会主義をおうかしていたのは東側である。

しかし今度の湾岸危機によるソ連経済の好転は予想より芳しくはなかったようだ。もっともそのほうが、統一ドイツを始めとする民主化の動きにとっては、よかったにちがいない。ドイツ統一と統一ドイツのNATO残留をソ連に了解させるにあたって、コール首相は西側諸国にNATOからソ連のゴルバチョフ政権に経済援助をすることを呼び掛けた。そもそも東側民主化のきっかけとなったのが、ソ連経済のいきづまりであったことは言うまでもない。社会主義の破たんと膨大な軍事費。ゴルバチョフはソロバンのはじきかた次第で、世界の構造が大きく変化することを証明してみせたのである。

もし、今度の湾岸危機の結果、ソ連経済が持ち直すようにでもなったなら、民主化にとっては一つの障害となろう。国内よりも国外に多くの支持者を持つゴルバチョフにとって最大の武器は国外からの経済援助である。西側が経済援助をしようとしているのは、ゴルバチョフ政権に対してであり、社会主義経済に対してではない。もしソ連経済が自己回復したならば、ゴルバチョフの経済援助という民主化の手土産の魅力は半減してしまう。そうなれば保守派にとって、ゴルバチョフが指導者である必要はない。それだけでなく、社会主義経済が自己回復可能な優秀なイデオロギーであるという声が高まろう。ソ連国内の保守派は巻き返し、民主化の動きにとってあまり好ましくない事態となりかねない。

今や世界構造は経済という古くて新しい力によって動かされている。世界を動かす巨大なソロバンが「協調による平和」という正しい答えをはじき出すことを願ってやまない。

（平塚　晶子記者）

進級システムに異論あり

学習院大学の進級システムは、二年次で頭打ち、つまり二年次と三年次の間に〃ハードル〃を置く制度を採用している。例えば『平成二年度法学部履修要覧』の概略はこうだ。

「前期二年においては、一般教育科目二四、外国語科目一六、保健体育科目二、専門教育科目一二単位を取得しなければならない」

単位数に違いはあるものの、残りの三学部もシステムはほぼ同じだ。ただし経済学部と理学部は外国語科目の不足四単位（初級は除く）を認めている。四学部に共通して言えることは、一般教育、保健体育、専門教育科目のいずれか一つでも単位を取得できなければ、留年する、つまり後期二年の専門課程への道が閉ざされてしまうということだ。

この〃ハードル〃制度の背景には、いったい何が隠されているのだろうか？　単に勉強しない学生にはっぱをかけるという、大学側の思惑があるのかもしれぬ。しかしそれは、大学のレジャーランド化が取りざたされる中で、有名無実となってしまった。また、高度な専門分野を研究するために必要不可欠な講義、演習の単位を取得できない学生に、門を閉ざすためなのかもしれぬ。しかしそれは、いわゆる『般教留年』『保体留年』の説明にはならない。

一般教育そのものの是非を問うつもりはないが、やはり『般教留年』は非実際的だと思われる。大学側に「一般教育科目で得た広い知識と豊かな体験とが、専門教育・研究の成果と相まって、本学学生のバックボーンを形作ってゆく」という意図があるのならば、それは、大学四年間という枠内で達成すればいい。これは、保健体育にもそのまま当てはまることだ。

ある一定数の単位を取得しなければ専門課程に進級させない制度は、今や、単位を取得してさえいれば進級させる制度と化してしまった。「大学を卒業するためには、各々の学部、学科の定める履修規定に従って一定単位を履修しなければならないが、これは極めて厳格なものであって一単位の不足があっても卒業資格は与えられない」という言葉も虚しく響く。

最高学府である大学は、学生に対して量より質の学問を、単位取得よりも単位の質という厳格さを求めるべきである。単位取得至上主義、制度至上主義の風潮が学内にまん延すれば、学生の学習意欲を阻害するだろう。やはり〃ハードル〃制度には疑問が残る。

（杉本　勝之記者）

学習院素描画
輝く学生日本一
乗るは相模桜号

さる七月に行われた全日本学生馬術選手権において、馬術部の井地亜由美さん（済四）が優勝した。学生生活をほとんど馬と共に過ごしてきた井地さんとはどのような人だろうか。

井地さんと馬の出会いは、小学校四年の頃。馬が好きだった父親の影響で、実家の持ち馬に乗り始めた。自分の馬を持ち、本格的に馬術を習い始めたのは、高校入学してからで、その後は馬ひと筋の青春である。

「スポーツで使われる動物は、馬だけ。馬はなんといっても素直でやさしいし、馬からいろいろと教えられることもあります。こちらが真面目に接すれば、必ずむくわれるのも馬の魅力」

「馬を怒るときは、感情で怒ってはいけない。それは単なる〃八つ当たり〃。一度ピシッと怒ればそれでいい」というコーチのアドバイスを心掛けるようにしている。

〃馬に乗る〃というと、エレガントで華麗なイメージを抱きがちだが、現実はそんな生易しいものではない。生き物を相手にするのだから、世話などの忙しさは相当なものだ。朝七時から昼頃までかけ、給餌、厩舎（きゅうしゃ）の掃除、練習、練習後の手入れをこなす。それにもちろん費用もかかる。大学とOBからの援助に加えて、部員が交替でアルバイトもしなければならない。長期休暇中も世話は欠かせない。

「馬の世話には、時間プラス体力が必要。それでもやってこられたのは、何より馬が好きで、一緒にいられれば幸せだったからなんでしょうね」と井地さんは語る。

しかし、そんな井地さんでも、あるとき、もう馬に乗ることをやめようと思ったことがある。それは今年の五月だった。

「それまで乗っていた馬を、自分の失敗によっておろされてしまうことになり、もう馬には乗るまい、とまで一時は考えました。でも、ここでやめたら馬に対して失礼だし、新しい馬の能力を、最大限に引き出してあげることが自分のなすべきことではないだろうかと思い直しました」。自らの性格を「楽天的で、くよくよせず前向き」と称する井地さんらしいエピソードである。

現在、井地さんの相棒の馬は、相模桜号。もう十六歳（人間の年齢に換算すれば六十四歳）と、年を取ってはいるが、いまだ馬術部のエース格である。「真面目で、経路を回れば完ぺきにコースを覚える賢い馬」だそうだ。[illegible]

[illegible]「馬術は、それだけに大変ですが、大変なだけに楽しいんです」と語る井地さんの目は、キラキラ輝いていた。

井地亜由美さん（済４）

―プロフィール―

井地　亜由美さん（いじ・あゆみ）経済学科四年。[illegible]

マスコミ・広告セミナー
作文指導で実力を伸ばす

毎年法学部と就職部により行われ、恒例になりつつあるマスコミ・広告セミナー。現在も毎週火・金の放課後、小教室にて後期セミナーが開催中である。その様子をのぞいてみた。

九月二十七日、平成二年度後期セミナーの応募が締め切られた。この講義は、マスコミに就職を希望している学生に少しでもなじんでもらおうという趣旨で、昭和六十一年から実施されている。今回の応募対象は、全学科の二・三年生。

前回は七十五名の応募があったものの、講義への出席率は低かった。今回はそれを考慮して応募の際に「なぜマスコミ・広告を志望するか」という題でレポートを提出させた。ところが応募者数が少なかったため、事実上無選考となり、結果として受講料を払った二十六名が講義を受けることになった。

講師陣は、本学法学部から三人と、学外からの特別講師十一人である。その十一人は現在、マスコミで活躍中であり、うち十人は本学のOBである。

各回の講義には、作文指導が共通している。これは、あらかじめ与えられた題と字数で作文を提出し、講師がそれを添削して約二週間後に受講生に返却するというものだ。また、各回の講義内容は担当する講師によってさまざまであり、いずれもホットな話題が期待できそうである。

二人の受講生に講義の感想を聞いてみた。

「マスコミに就職を希望していて、何らかのプラスになればと思って応募しました。このセミナーを聞いていない人よりは短距離でいけるというか……作文指導もしてもらえますし」

「もともとジャーナリストになりたくて……このセミナーのことは友人から聞いて応募しました。講義を聞いたり作文指導をしてもらったりして、自分の姿勢が甘かったと思いました」

講義は少人数で行われるため、講師と受講生との活発な質疑応答が可能である。

セミナーを受講して実際にその業界に進んだ人はどのくらいいるのだろうか。平成元年度前期の場合、出版・新聞・放送・広告に進んだ人は受講生五十八人中九人。平成元年度の卒業生全体では、四十九人であった。

法学部と就職部では、来年度もマスコミ・広告セミナーを実施する予定だということである。興味がある人は、来年のセミナーを受けてみてはどうだろうか。

なお、講師陣は次の通り。

伊藤洋子（株式会社「系」）
犬養康彦（共同通信社）
遠藤真廣（I&S）
大山琢一（電通）
尾関謙一郎（読売新聞社）
河合秀和（本学法学部教授）
田中靖政（本学法学部教授）
津田俊樹（産経新聞社）
豊田利男（講談社）
松尾文夫（共同通信社）
松本克美（元共同通信社）
山本栄一（本学法学部講師）
湯山貢代（日本放送協会ラジオ制作部）
和田昌樹（ダイヤモンド社）

（敬称略・五十音順）

運転免許

早春の南房総で

短期間の合宿教習で免許が取れます!!

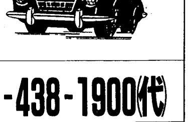
尚、2月3月の予約はお早めにお願いします。

日程・料金等はお問い合せ下さい。

◎実地免除

◎普通免許（卒業まで最短）15日間

◎運転免許ローン歓迎（6～24回払）



輔仁会売店にて

学習院大学指定　（お問い合せ先：輔仁会売店）

千葉県公認校グループ免許センター

03-438-1900(代)

〒105 東京都港区新橋３－21－２　江藤ビル4F（新橋烏森口より1分）

レフティー

MEJIRO STREET LEFTY CAFEBAR

ランチタイム AM11：30～PM6：00

パブタイム PM6：00～AM1：00

日曜定休

豊島区目白３－５－８

TEL　950－7973

大学祭企画あれこれ

大学祭まであと半月と迫った。現在、大学祭実行委員会（大実委）を中心に、各参加団体が準備をすすめている。今年の大学祭では何が行われるのかを大実委に聞いてみたところ、さまざまな企画があることが分かった。その中には毎年おなじみの企画を行う団体もあれば、今年から新たな企画を行う団体もあった。今回は大学祭でユニークな企画を行う団体をピックアップし、取材を試みた。

展示・発表

展示は文化系参加団体の多くが企画し、最も力を入れるものである。また音系サークルや古典系サークルなどにとっては、大学祭は年に一度の最大の発表の場でもある。一年間の努力の成果に期待したい。

美術部の展示は油絵がメイン。そのほかにもシルクスクリーン、オブジェ、水彩、日本画、陶芸などを展示する。作品数も百数十点と非常に多く、大変見ごたえのあるものとなろう。

能楽研究会は西四—三〇三教室で、公演を行う。そして今年は初めてピラミッド校舎前の広場に舞台を設置し、薪を使用して金春流三番、宝生流四番の仕舞を発表する。毎年学祭期間中には八百人程度の来場者があるが、今年はピラ校前での公演もあわせ、それ以上の観客動員を目指している。

出前もO・Kフランス会部（上）とスリランカ・カレーの美史研

児童文化研究会は今年も人形劇を上演する。脚本はオリジナルで冒険もの。演技、セリフはマイクなしの生。人形も当然手作り。上演は学祭期間中の毎日午前十一時、午後四時の一日二回の予定。各公演にはアドリブが入るため、日によって多少内容が違うそうだ。なるべく子供に楽しめるようにしてあるが、大人が見ても楽しめる内容である、とのことだ。

映像文化研究会では、今年初めての試みとして、北一校舎のピラ校側壁面にスクリーンを掛けて映写を行う。既存の形にとらわれない斬新な企画に、十一月一、二日の両日午後六時はピラ校前に集合だ。「PUNK刑事」「H・2・8」など映画も多数用意されている。その他、常時映写も行う予定。

占い 心理テスト

信じる人はもちろんのこと、信じない人でもなんとなく気になってしまう「占い」。その「なんとなく」で毎年かなりの動員数を集めてしまうのが、この企画のすごいところだといえる。

東洋文化研究会では、毎年恒例の「四柱推命」という生年月日を用いた占いを行う。「今年は去年よりも一段とグレードアップした占いを、自信をもっておすすめできる」とは部長さんのコメント。一年生が多く入部したので人手も増え、例年の混雑も少しは解消されるようだ。

心理学研究部もおなじみの心理テストを行う。内容は性格テストと性度（男らしさ、女らしさ）テスト。男性のような女性が、女性のような男性がかっ歩する最近である。性度テストで自分自身が、どれだけ男らしいか女らしいか一度みてもらうのも悪くないかも。

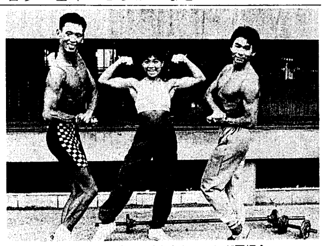
出店など

ウインブレに身を固め、大声をあげて勧誘する売り子と、例年相場の決まっている出店。しかしここではちょっと違うイメージの出店を紹介したい。

漫画研究会では、似顔絵と新作機関誌、漫研オリジナルグッズの販売を行う。おすすめはなんといっても部員の描く一人百円の似顔絵である。もう十三年目になる伝統のあるもので、「自信をもってオススメできる」とのこと。そのほか、大漫画古本市を開催。

フランス会部では例年のクレープ屋に出店セクションを設けた。今年度入部した一年生の余剰人員を使いっぱしりにして出前業務をこなす予定だ。「どこでもすぐにうかがいますので」とは言うものの、初めての企画なのでちょっと不安もあるようだ。

美術史研究会では身近な国際交流を目指してスリランカカレーの店を開く。最近の国際交流では欧米諸国への偏りが目立つが、美術史研究会はその点を踏まえ、アジアに目をつけたようだ。今回のカレーの特徴は、五種類のルーを自由にブレンドできるところにある。スリランカ大使の協力もあり、味に関しては保証つきとのこと。値段も破格のものになるらしく、一度は足を運んでみたい店だ。



女性も登場ウエイトトレーニング同好会

コンテスト

最近ではコンテストと名のつくものが星の数ほどある。本学の大学祭でもミスコンは恒例のものとなった。そこで、今回は一風変わったコンテストをひとつ取り上げてみた。

ウエイトトレーニング同好会では、十一月一日に仮講堂で「ボディビル・コンテスト」を開催する。亜細亜・青山学院・国学院・学習院の四大学合同による開催は今回で三度目になる。例年の好評を踏まえた上で、今まで以上の客数を求めるために、今回初めて大学祭期間中に行なうことになったそうだ。まだ未定ではあるが、学生時代の経験者によるゲストも登場し、また四大学合同では初めて女性も出場するなど、話題も盛りだくさんである。少数派ながら女性観客にも非常に受けがよく、興味のある方にはぜひおすすめの企画だ。

都電の窓から⑦

梶原〜荒川遊園地前

新宿区、豊島区、北区を通り抜けてきた「都電の窓から」。最後の荒川区に向け「梶原」を出発します。「チンチン！」

「梶原」から線路はほぼ直線コース。坂も無く、都電特有の横ユレはほとんどありません。線路と両脇の道路との境は白い低い柵なので、車内から見るとすっきり開けた感じがします。

「荒川車庫前」に着きました。ここで都電と一緒にひと休み。ホームに降ります。目の前に荒川電車営業所・車庫があります。営業所に入ってみました。取材だと言うと、ふだんは入れないそうですが、車庫の内部を見せていただけました。

車庫には現在活躍中の都電が並んでいます。黄色い七〇〇〇型に緑の七五〇〇型。その他に深緑の六〇〇〇型もありました。この六〇〇〇型、ワンマン運行ができないため、ふだん運行していません。でも毎月第一第三日曜日に一度ずつサービスとして運行されるとのこと。まだまだ走る姿は見られます。

整備中の都電の隣には……ありました。今年五月より運行を開始した八五〇〇型。乗車口と側面の窓が大きいのが特徴です。車椅子の方でも使い易いよう工夫された最新型。新造車両は二十八年ぶりです。

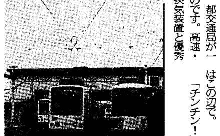
車庫の裏に、古びた胴長の都電が置いてあります。これはP・P・Cカーといわれ、都交通局が一両だけ試作したものです。高速・防音・防振・暖房換気装置と優秀な性能を持ちながら、昭和四十二年に引退。理由は車体の長さにあります。カーブに弱く、銀座線しか走らせることができなかったのです。二、三年前、上野の不忍池からこの車庫裏に移され、今では余生を静かに送っています。

車庫の表にまわってみました。車庫の隣には営業所の旧庁舎が建っています。改装して都電の博物館にしよう、という話もあるとか。どうなるのか楽しみです。

車庫を出て再び出発です。次は「荒川遊園地前」。ここのホームから荒川遊園のゲートが見えます。隣には女性の形をしたブロンズ像。そこから遊歩道が続いています。天気の良い日には隅田川まで歩いてみてはどうでしょうか。

今回もまた、のんびりしたペースになってしまいました。それではこの辺で。

「チンチン！」



停車中の都電＝荒川車庫にて

読書

ブームの社会現象学　芹沢 俊介

本書は著者がすでに出版している「システムの贈りもの」の続編に位置される。「ブーム」というテーマを料理する道具は、前回に引き続いて「システム社会（超高度先進資本主義社会）」である。

私たちが生きるシステム社会の最も本質的な意志とは合理性だ。システム社会の中では、あらゆるもの（人間も含む）が合理的に配置されてしまう。そしてその中で人間は、機械と同様に「交換可能な交換価値」という独特な存在を強いられるようになった。システム社会は、「交換不可能な交換価値」すなわちその人のかけがえのなさに存在の重要性を持たせることがない。かけがえのなさを削除した後の「交換可能な交換価値＝部品としての人間」にのみその重要性を与えるものなのである。

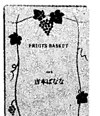
本書で選ばれたテーマの中で、そのシステム社会の在り方が最も顕著に現れているものとして「システムとしての脳死と臓器移植」がある。

脳死・臓器移植というテーマでは、脳死者を作り出さないためのICU（集中治療室）から脳死者が生み出される実態、臓器移植の必要性が脳死という社会認識を援助する実情が描かれている。システム社会下の人間の在り方を「交換可能な交換価値」とみるならば、人体機能においてもそれは適用されるということだ。人体という「システムの意志」のもとで、それぞれの臓器は交換可能なものとして位置づけされているのである。社会と人体の合理性追求の道は、パラレルであった。

高度大衆社会の新しいシステムの中で、大衆の欲望は過大である。大衆は市場的合理性の枠をはみ出す所で偏った消費を生み出し続けている。著者は、これらの過剰なブームに対して常に距離を保つ。そのブームの渦を傍観者の立場から綿密に考察する。そして本書において、彼の目線は確実にその中心を貫いたといえるだろう。

〈筑摩書房　一四四〇円〉

FRUITS BASKET　吉本 ばなな



新刊を紹介するためにいくつかピックアップした本の中に、吉本ばななの対談集があった。なぜこの本を選んだのか？ それは周りの人たちで彼女の作品を良く言う人が少なかったからだ。この対談集で、さまざまなクリエイターと話す彼女の、その輪郭が見えてくるだろう。

彼女の作品は大きすぎたブームのおかげで誤解されている。やっかみのせいか作品も読んでいないのに、はなから無視する人が多い。彼女の作品は本来静かで読者に対する押し付けのない優れたものである。最近の小説のように文学遺産の破片をモザイクしたようなものとは異なるはずだ（それらの作品を低く見ているわけではない）。ミラン＝クンデラは「もはや現代の小説は時代性を担い得ない」と語ったが、現代に至ってその文学の系譜は確実に見いだしにくくなっている。彼女の作品を読む時は、妙に構えたりしないで素直に彼女の語りと共感してみたらどうだろうか。

対談した中に、「さよなら、ギャングたち」でデビューした高橋源一郎がいる。吉本ばななと高橋源一郎の組み合わせ？ 何か妙な感じだ。対談した人たちの中で、作風という点からすると彼女と最もかけ離れている。ところが対談では思った以上に話がはずむ。二人の結論として「作家の格は人柄の良さで決まる」などというのが出てくる。同じ小説家でも島田雅彦とはうまくいっていない。彼は、常に自意識を徹底させ解釈と形式を重視する。ところが彼女はそこにあまり拘泥しなかった。それで対談ではお互いの思いがすれ違うような感じが出てしまっている。

彼女と対談する人びとはみな特徴的な人ばかりだ。その中で彼女はとてもプレーンな感じがする。マスコミからの過剰なあおりたてで、その姿勢を崩さないでほしい。賛同するにしてもしないにしても、彼女の評価に過剰なものはいらない。

〈福武書店　一一〇〇円〉

（柚江 章記者）

◇　◇◇　◇

大学新聞社では、さまざまなメディア紹介欄を企画しています。取り上げてほしい本や映画、またイベントなどがありましたら、レイメイ三一六までご連絡下さい。

映画

『エレンディラ』

監督　ルイ・ゲーラ
撮影　デニス・グレルバル
音楽　モーリス・レクール
出演　イレーネ・パパス
　　　クラウディア・オハナ
一九八三年、仏・メキシコ・西独作品、カラー一〇五分

〈ストーリー〉
強欲な祖母に仕えるエレンディラは、ある晩不注意から屋敷を全焼させてしまう。財産を取り戻すため、娼婦として旅することを余儀なくされた彼女は、砂漠で美しい少年ウリセスに出会う。自由を求める彼女は、やがてウリセスを使い祖母の殺害を企てる。

コロンビアのノーベル賞作家ガブリエル・ガルシア＝マルケスをご存じだろうか。一九二八年生まれの彼は『百年の孤独』『予告された殺人の記録』など、ラテンアメリカの伝説や民話の幻想世界と現実世界を融合させた作品を次々と発表、一九八二年にはノーベル文学賞を受賞した。『エレンディラ』は彼の同名小説を映画化したものである。

まず、砂漠の中の屋敷の異様な雰囲気に驚かされる。屋敷内を吹き荒れる風、舞い飛ぶ花。一見不自然でシュールな情景である。しかしそれらは全く異和感を与えないばかりか、知らぬ間に観客をこの世界に引き込む力を持っている。それは、この映画の世界、さらにはラテンアメリカの世界が、私たちの日常とは全く異なっているからである。都市化された生活を送る私たちにとって民話はあくまで非現実的なものでしかない。しかし、ラテンアメリカにおいては、現在も民話とは生活の中に浸透したものなのである。砂漠という隔離された背景を加え、さらにこの映画は日常の空間や時間を超越した世界を構成している。

この映画の世界を支えるのが、異彩を放つ演技陣と珠玉のラテン音楽である。予知夢を見たりする不思議な役柄も、独特な雰囲気で観客を納得させる主演のクラウディア・オハナ。ナイフで刺され緑色の血を吹き出す、人間とは思えぬ祖母を怪演するイレーネ・パパス。全編を盛り上げる音楽はモーリス・レクール。この作品は、監督を中心とする全てのスタッフのパワーと、ラテンアメリカの現実の中に存在する幻想的空間が一体となり、ガルシア＝マルケスの世界を見事に映像化したものだといえるだろう。

今回紹介した『エレンディラ』は、十月十三日から十九日まで開催されている新ラテンアメリカ映画祭'90の一環として、十七日から十九日までキネカ錦糸町で上映される。なお、新ラテンアメリカ映画祭'90についての詳細は、銀座テアトル西友＝電03（535）6000、またキネカ錦糸町＝電03（631）3121まで。

（山本 久真子記者）

「エレンディラ」のワンシーン

中夜祭

大実委による今年の注目企画ナンバーワンは、中夜祭だ。今年登場の新企画である。十一月二日午後六時からのピラ校前仮設ステージにおける野外コンサートがメインとなる予定。出演者は当日まで秘密、ということだが、信頼できる筋によれば、今女子大生に人気の某アーチストだそうだ。当日は、日中に整理券を配る。また、後夜祭には、アイドル歌手の田中陽子さんがくる予定。四時三十分ごろ登場するということだ。

ちょっとカタめの企画としては、公開講座が新登場。大学の授業がどんなものか、一般の人に知ってもらおうという趣旨で開かれる。政治学科の藤竹教授、哲学科の千野助教授が講義する。本学学生でも受講できるので、興味があったら行ってみるのもいいだろう。受講すると修了証がもらえるそうだ。

盛りだくさんの大実委企画。どうぞお楽しみに！

ピラ校前アトラクション

11月1日（木）	
12:00〜12:30	チアリーダー
1:00〜3:00	昭和寮 黒んぼみこし
5:00〜	映像文化研究会

2日（金）	
11:30〜1:00	民族舞踊研究会
1:00〜1:30	チアリーダー
1:30〜2:30	空手道部
3:00〜5:00	JRY（地上げ屋ローリングス）
5:00〜	中夜祭

3日（土）	
11:30〜1:00	民族舞踊研究会
1:00〜2:00	応援団
2:30〜6:00	能楽研究会
6:00〜	映像文化研究会

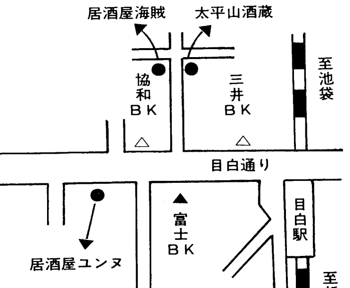
4日（日）	
11:00〜12:30	合気道部
12:30〜2:30	少林寺拳法部
2:30〜3:00	応援団
3:00〜3:45	JRY
4:30〜	後夜祭

これからよろしく。
目白のビヤステ。

BEER STATION
目白倶楽部
サッポロビール

営業時間　年中無休
ビヤログAM11:30—PM10:00
ランチタイムAM11:30—PM3:00
ご予約はTEL.03—981—6476

太平山酒蔵
☎（950）3293
居酒屋ユンヌ
☎（950）6453
居酒屋海賊
☎（954）4229



打ち上げ・コンパはここっきゃない！

※居酒屋ユンヌは年中無休。
※太平山・海賊は日曜・祭日休み。
※各店とも、5〜50名様位の宴会承ります。

学習院大スポーツ

11連覇達成なるか

第41回四大戦開幕せまる

十月十九日から二十一日までの三日間、成蹊、成城、武蔵、学習院大学による、第四十一回四大学運動競技大会（四大戦）が本学を会場に開催される。本学は現在、昭和五十五年の第三十一回大会から十年連続で総合優勝しており、大会史上初の十一連覇の期待がかかる。今年は、本学が四年に一度の当番校ということもあり、運動部常任委員会を中心に各部ともその準備と練習に余念がない。

十九日午前九時より、創立百周年記念会館において開会式が行われ、三日間の大会の幕をあける。

今大会で行われる種目は、25部1同好会による正式種目27競技、4部によるオープン正式種目4競技、一般種目8競技、そして教職員種目3競技のあわせて29部1同好会42競技。このうち、十九日以降の三日間に行われる種目は、正式種目8、オープン正式種目3、一般及び教職員種目11のあわせて9部22競技となる（日程と会場については図表参照）。

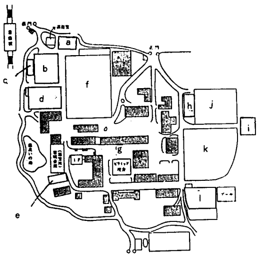
四大戦最大の見せ場である駅伝は二十一日午前十時、学習院中高グラウンドをスタート。交通事情の悪化などにより、警察から一般道路の使用許可が下りなかったため、今年は学内コース（1周155〇㍍）を走ることになった（男子4周、女子2周）。

同日午後五時より、創立百周年記念会館で閉会式。同六時より仮講堂周辺で後夜祭が行われ、全日程を終了する。

四大戦において本学は、昨年通算三十回目の総合優勝を成し遂げ、同時に前人未踏の十連覇を達成した。今大会も十一連覇の期待がかかっているが、現状は楽観視できない状況にある。優勝時の大会記録を振り返ると、正式種目で他大学に差をつけて逃げきることが多いのだが、今年はその正式種目の差が縮まってきている（図表参照）。正式種目出場者はもちろん、一般種目出場者の奮闘を期待したい。

毎年四大戦期間中は、一般学生に休日とみなされることが多い。今年は四年に一度の当番校ということもあり、運常ではできるだけ多くの学生が応援にきてくれるよう呼びかけている。

競技場	19日（金）	20日（土）	21日（日）
a			正式種目柔道
b	正式種目バドミントン	バレー一般	教職バ
b	正式種目バドミントン		バドミ一般
c	正式種目卓球		卓球一般
d	硬式テニス一般	教職テ	
e	正式種目弓道		
f	ソフトボール一般	サッカー一般	ラグビー
g	演武会（空手 合気道、少林寺）		
h		バスケットボール一般	
i		バレー一般	
j		サッカー一般	駅伝（男女）
k	軟式野球一般		教職ソフト
l	正式種目軟庭	軟庭一般	



	学習院大	成蹊大	武蔵大	成城大
アメリカン・フットボール	1	4	2.5	2.5
サッカー	3.5	3.5	2	1
硬式庭球（女子）	4	3	1	2
バレー・ボール（男子）	1	3	2	4
〃 （女子）	4	3	1	2
水泳（男子）	3	4	1	2
〃 （女子）	4	3	1	2
G・ホッケー	2.5	1.5	1.5	2
ゴルフ	4	3	1	2
バスケット・ボール（男子）	2	3	1	4
ボート	2	1.5	1.5	2.5
スキー（男子）	4	2	1	3
〃 （女子）	4	1	2	3
総合	39	35.5	18.5	32

四大戦関係図表
（10月6日現在）
上：既終了種目得点表
左上：日程表（英字は地図に対応）
左：学内案内図

クローズアップ ～永松運常委員長～

「この四大戦のために運常に入ったようなものだ」。運動部常任委員会委員長・永松康宏さん（法四）は熱っぽく語る。今年は四年に一度の四大戦の当番校。「恥ずかしくないものにするために、成功させるために、先輩の激励、仲間の協力に支えられ努力してきた」。運常での四年間に蓄わえてきた力を発揮するときが、いよいよやって来た。

しかし、障害がなかった訳ではない。「予算がまったく足りない。パンフレットの広告料でなんとかやっているが、それでも足りない」。だから文常、文化部の人たちから、金銭、その他の面で協力すると言われたときは「とてもうれしかった」。

一番失望したことは、大学当局があまり協力的でなかったことだ。「せっかくたてた計画も『制約があるからダメ』といってオジャンになる。準備のための泊まりこみも前日からしか許してもらえない。四年に一度の大行事なのに、これでは何にもならない。なんとかしてくれないものだろうか」と永松委員長は訴える。

運常委員長になって一年、強力に委員会をリードしてきた。さぞかし気苦労が多かったのでは、という質問に「（運常の）みんなは、自分の部が忙しく、決まった時間に集まることができなかった。そのために活動も限られ、みんなをまとめていかに効率よく仕事をするかを考えた。でもあまりやることがなくて……結構ヒマジンなんです」と軽く笑い飛ばす。

この四大戦を最後の花道に、十二月の定例総会で、後輩に道を譲る。「運常での仕事を通して体育会の友人が増え、貴重な体験をさせてもらった。とても感謝している」

所属はゴルフ部。大学から始めた。ハーフ40ぐらいでラウンドし、ドライバーで280ヤードも飛ばす。「当たれば飛ぶといわれます」と苦笑い。「パットとアプローチがうまくなればゴルフはうまくなります」と語る。「ゴルフをやってきてよかった。一番うれしかったのは、一年生のとき二つ降格したブロックが、今年一つ上がったこと」だという。

「勉強はあまりしなかったけど、何もしなかった人よりは、充実した四年間だった」と振り返る。残った大学生活では、英語の勉強がしたいそうだ。アメリカに一、二年留学する予定。高等科二年のとき、アメリカでホームステイをしたのを機に、将来海外を股にかけた仕事をしたいという思いがつのったからだ。

「何をするにも自分の能力の限界までベストをつくす」そんな人間になりたいと真剣なまなざしで語る。体を動かすことなら何でもゴザレのスポーツ万能人間。「四大戦は十一連覇しますから、まぁ見てて下さい」。気さくな行動派の顔は、確かな手ごたえをつかんでいる自信に満ちていた。

談笑する永松委員長

川口さんインタビュー

九月二十二日、アジア地域最大のスポーツの祭典である第十一回アジア競技大会が、北京で開催された。本学からも、競泳の部に水泳部の経営学科二年生・川口伸之さんが出場。百㍍（二十三日）、二百㍍（二十六日）の平泳ぎでそれぞれ銅、銀メダルを獲得した。

本紙では、帰国後間もない川口さんに、試合の感想などを聞いてみた。

―水泳を始められたきっかけは。

「近くにスイミングクラブがあったからです」

―今まで大変辛い思いをしたり、厳しい練習に耐えてこられたことと思います。やめたいと思ったことなどありますか。

「しょっ中ありましたよ。本気でそう思ったことはなかったけど」

―どのような気持ちで本大会に臨まれましたか。

「今回はバルセロナに向けてのステップのつもりでした。とにかく、確実にタイムを縮めたかった」

―今回のアジア大会における自分の目標は達成されましたか。

「タイムは悪く、自分にとっては不本意なものだったけど、そこまでの過程はよかったと思ってます。本番で失敗しちゃったんで、全体としては五十点というところかな」

―ゴールの瞬間、どう思いましたか。

「やられた、と思いました。今回の百㍍がメインだったんで、そのつもりで臨んだんですよ。だけど、ゴールの瞬間、中国の大歓声が聞こえてきた。その時、ああ、だめだったんだな、やられたなと感じました」

―今後の抱負を聞かせてください。

「年内の試合はもうないので、次は来年一月の世界選手権に的を絞って練習していきます。再来年のバルセロナに向けて、着実に力をつけていきたいと思ってます」

―最後に学習院大学の学生に何か一言。

「応援してくれた方に、ありがとうを言いたい。これからも頑張ります」

―お忙しい中、貴重な時間をさいてくださって、本当にありがとうございました。

大きな大会を終え、息つく間もなく、早くも次の大会に向けての熱い思いを語ってくれた川口さん。日本記録を目指して、これからも頑張って下さい。

プロフィル

川口 伸之（かわぐち・のぶゆき） 昭和45年5月7日生まれの20歳。水泳を始めたのは、小学校1年生の時。小さい時からジュニアオリンピックなど数多くの大会に出場し、好成績を収める。最近では、89年パンパシフィック選手権出場、90年2月ワールドカップヨーロッパツアー参加、そして今回のアジア大会日本代表選手。セントラルSC所属。市川学園高校出身。

タイムを確かめる川口さん ＝時事通信社

アジア大会決勝タイム

男子百㍍平泳ぎ
1位 陳剣虹（中国） 1分2秒60
2位 渡辺健司（日本） 1分3秒12
3位 川口伸之（日本） 1分3秒25

男子二百㍍平泳ぎ
1位 渡辺健司（日本） 2分17秒49
2位 川口伸之（日本） 2分19秒84
3位 スグリアト（インドネシア） 2分20秒06

1部への復帰まぢか

ソフトボール部（男子）

ソフトボール部（男子）（秋期から二部）は、九月二十三日、学習院大学北グラウンドにてリーグ第一回戦を14－9で圧勝した。対戦相手は明治大学で春期リーグ三位の中堅。

学習院大学の先発は速球の赤山英治選手（営二）。初回裏、四球2を含む3失点を許したが、二回表に自ら三塁打を放ち、打線が続いて4点を奪い逆転した。二回以降は安定したピッチングが続き、五回表、赤山選手の二ランで明大を突き放し、最終回、副将の浅野美彦選手（法四）の三ランで試合を決めた。

六回裏から登板したリリーフの赤尾広明選手（済二）は10点リードの最終回裏、明大の連打をうけ5失点するが、最後は遊ゴロにしとめてゲームセットとした。山田和弘主将（営四）は、「（ピッチャーを）変えなかったのは、自信をつけさせるため」。現在、学習院大はピッチャー四人体制だが、山下久則選手（心二）が骨折後の調整中のため、戦列を離れている。

一部復帰のためには、春期リーグ2位だった東京学芸大学との対戦（十月十日）、一位決定戦（十月二十日）に連勝しなければならない。投打守三拍子そろったチームだけに、早期の一部復帰が望まれる。

◆ ◆ ◆

二部降格と今後の展望について、山田主将にうかがった。

―二部の手ごたえは。

「練習は一部を想定している。レベルの差でものたりない。（対成蹊大学戦で）一敗したのは信じられない」

―現在のチーム状態は。打線は好調のようですが。

「（よく打てるのは）二部だから…。打たせて捕れるようになれば、有利に試合はこびができる」

―圧勝した対明治大戦について、勝因は。

「先発が好投、バランスがよかった」

―同日、連続して行われた対成蹊大戦について、敗因は。

「（四回表ツーアウト満塁のエラーは）ていねいすぎてしまった。（赤山選手は）ピッチャーの柱なので連投させた」

―今後の目標は。

「一敗したが、学芸大との最終戦（十月十日）で勝ち、一位決定戦で一部にもどりたい」

秋期リーグ初戦の対明治戦。打者は2番ショートの乙津（おとづ）哲也選手（営2）

鬼久保多賀子選手（仏3）・左側 ＝東京武道館にて

剣道部

第三十九回関東学生剣道優勝大会および第十六回関東女子学生剣道優勝大会が、それぞれ九月十六日、二十三日に開催された。

男子優勝大会では、日本武道館に総勢82校の剣道部が集い、日頃の練習の成果を競うところとなった。学習院大学男子剣道部は、1回戦で國學院大学と対戦。1勝1敗5分けとしながらも、本数差によって惜しくも敗退した。森川博昭主将（営四）は「部員の皆には、試合結果にとらわれず、剣道を通じてこれからの社会へ貢献する人物としての自覚を育ててもらいたい」と語り、さらに今後の抱負として四大戦の必勝を確約した。

女子優勝大会は、綾瀬の東京武道館にて行われ、64大学が参加した。学習院大学女子剣道部は、1回戦で慶応大学と対戦。2勝2敗1分けの接戦の末、本数勝ちを収めた。

続く2回戦、東京学芸大学との対戦では、1勝3敗1分けで敗退した。今大会の感想を聞くと女子責任者の宮坂公子さん（哲四）は「練習の成果は充分発揮できたと思います」と、充実した試合であったことを述べた。今後の抱負としては男子剣道部と同様、四大戦での優勝を目指しているとのこと。

四大戦への盛んな意気込みをみせる本学剣道部。今後の活躍が大いに期待される。

陸上部

八月三十一日、上尾運動公園陸上競技場において、第二十一回四大学対抗陸上競技大会が開かれた。参加校は前回優勝校の本学をはじめ、獨協大学、明治学院大学、埼玉大学の合わせて四校である。

トラック競技で2位の埼玉大に総合9ポイント差をつけた本学は、フィールド競技で獨協大の独走を許したものの、総合得点では獨協大に14ポイント差をつけ、二年連続優勝を果たした。獨協大はトラック競技でポイントが伸びず2位、以下3位埼玉大、4位明治学院大という結果に終った。各大学の成績とポイント数は次の通り。

1位 学習院大 72点
2位 獨協大 58点
3位 埼玉大 56点
4位 明治学院大 50点

学内大会

四月二十日より開催されてきた学内大会の結果が、先日まとめられた。各種目と上位入賞チーム（者）は次の通り。

◎サッカー
1位 バーニングアッシュ
2位 陶芸研究会

◎バスケットボール（男子）
1位 スピリッツ
2位 GBBLA
3位 じじリンズ（書道部）

同（女子）
1位 スピリッツ
2位 スキー部
3位 zunちゃん生活苦だわ（ソフトボール部）

◎バレーボール（男子）
1位 スーパーキャット
2位 ジャイアントキャット
3位 ストロングキャット

同（女子）
1位 さくらクーピー
2位 くるまにポピー

◎ソフトボール（男子）
1位 死ね死ねサイトー1杯目（書道部）
2位 ハゲバブルス（数学科有志）
3位 硬式野球部
4位 昭和寮

同（女子）
1位 中山フラワーズ

◎軟式野球
1位 N・Y・C
2位 書道部

◎軟式庭球（男子ダブルス）
1位 三崎・村上（オッター）
2位 久保田・渡辺（オッター）
3位 井川・橋村（民族舞踊研究会）

同（女子ダブルス）
1位 天川・藤井（オッター）
2位 中村・小沼（オッター）
3位 福岡・前田（スタッフカンパニー）

同（混合ダブルス）
1位 長谷川・前田（スタッフカンパニー）
2位 高田・臼井（スキー部）

◎軟式庭球（男子ダブルス）
1位 イエーイ
2位 バブルス
3位 滝崎・沢田

同（女子ダブルス）
1位 浅香 楠本組
2位 なおちゃんず（史蹟研究会）
3位 田部井・田中

同（混合ダブルス）
1位 suger time
2位 吉田・藤田
3位 ため口しまくり

◎バドミントン（男子ダブルス）
1位 わたる&てつ
2位 大スケベンキーズ

同（女子ダブルス）
1位 全面的私がわるい
2位 吉金・小坂（経済研究会）

◎卓球（男子シングルス）
1位 影山
2位 栗原
3位 千葉

同（女子シングルス）
1位 斎藤
2位 土屋

同（男子ダブルス）
1位 宇高・布施（経済研究会）
2位 内野・永藤（GBC）
3位 降旗・井川（民族舞踊研究会）

同（女子ダブルス）
1位 末永・江郷
2位 小出・小坂（経済研究会）

同（混合ダブルス）
1位 奥木・伊藤（天文愛好会）
2位 田辺・足利（能楽研究会）

お知らせ

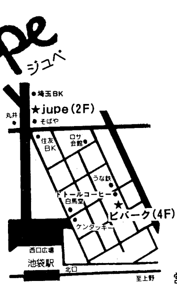
学習院大学新聞社では、紙面をより充実させるため、新たにスポーツ面を設けることになりました。これは今までの「学習院大スポーツ」を拡大したものです。それと同時に、「サークルインフォメーション」も形を変え、体育会系の情報中心になります。

そこで読者の方からの情報をお待ちしております。体育会系のサークルによるイベントや試合の日程、もしくは今までの試合の結果など、スポーツに関する情報でしたらどんなものでもかまいません。取材に来てほしいという内容でも結構です。お気軽にレイメイ三一六へご連絡下さい。

デスクの片隅

最近「モノポリー」というボードゲームに熱中している。内容を一言で言えば「地上げゲーム」とでもなろうか。最後にすべての土地を独占したプレイヤーが勝者となる▼たかがゲームとばかにするなかれ。プレイアビリティーが高く、買収、土地転がし、裏取引など、高度な駆け引きも要求され、これでなかなか奥が深い。サイコロ運が勝敗を分ける場合もあるが、プレイ中に繰り広げられる人間模様に「モノポリー」のだいご味がある▼ふだんは善人であるはずの友人たちが、拝金主義者、悪徳不動産屋、詐欺師にひょう変し、オイシイ土地に群らがる光景は、人間性むき出しの地獄絵である。これは見ていて飽きることがない。「モノポリー」は「億万長者ゲーム」と並ぶボードゲームの名作だと、私は踏んでいる▼そこで本題に入るわけだが、わが大学新聞社には、勝率八割を誇る「クイーン・オブ・モノポリー（別名・地上げの女王）」がいるのだ。彼女を木っ端みじんに打ち砕いてくれるゲームの達人が、どこかにいないものだろうか？ 連絡待つ▼後日談……「地上げの女王」はその後勝率を下げ、現在は六割。彼女の時代は終わりを告げ、私の時代が始まろうとしている。（杉）

ヤングカラオケ 洋風居酒屋 jupe ジュペ
カラオケ無料！
〒171 豊島区池袋2－13－2 佐藤ビル2F（二又交番前）
TEL 971－2755
営業時間 5:00pm～4:00am
火曜休業(但し、祭日、休前日は除く)



BIVOUAC ビバーク
カラオケ無料！
〒171 豊島区西池袋1－34－4 矢島参番館4F
TEL 982－9003
営業時間 6:00pm～2:00am (土曜祭日前) 4:00迄
火曜休業(但し、祭日、休前日は除く)
パーティ ¥2,500より承ります。(税・カラオケ込)

O型の血をください

緊急の手術のため

大至急O型の血液が必要です。

協力して頂ける方は、至急学生相談所（レイメイ201）までお越しください。是非ご協力を。詳細は学相まで。

※なお、被輸血者への安全な輸血と、供血される方の健康管理のため、以下のとおり『予備検査』を行います。

検査日 10月18日(木)、19日(金)、22日(月) 9:00AMより